

第2学年美術科学習指導案

日時 平成27年11月11日(水) 授業①
場所 八幡平市立西根中学校 2年1組教室
学級 2年1組(男子17名 女子18名 計35名)
授業者 工藤 リカ

1 題材

浮世絵とジャポニズム 【B鑑賞(1)ア・ウ】

2 題材について

(1) 生徒観

本学年の生徒達は、初めての題材や、苦手だと感じる題材であっても、真剣に話を聞きアドバイスを素直に受け入れ、作業に集中して取り組むことができる。本学級は明るく発言も活発である。何事にも興味をもって意欲的な反面、自分の考えや思いを具体的に表現することや、要点を整理して発表することが苦手な生徒が多い。昨年は指定された観点のもと、クラス毎に自分たちの作品を鑑賞し、それぞれの作品の良さや工夫した点に気づき評価できたが、あくまでも個人の感想で終わっていた。今回の鑑賞では、作品の見方を更に深めるため、作品の色や形、構図や内容などの要素に着目しながら、そこから受けるイメージの根拠を作品の中に見だし、それを班で発表し合っってその妥当性を検討する活動に取り組ませる。そして、目の前の作品から大切な情報を取り出し、それらの意味するところを分析して、論理的に解釈したりよさや美しさなどの価値を判断したりする力を育てていきたい。

(2) 教材観 (全三時間)

浮世絵は江戸時代に発達した風俗画で、特に錦絵と呼ばれた多色刷りの版画は、江戸の流行物が色鮮やかに描かれ、庶民に大変な人気を博した。浮世絵の特質の一つは、「絵師」「彫り師」「摺師」など複数の人々によって制作され、当時の職人の優れた技術に支えられていたことである。次に、当時世界的にも珍しい「庶民の生活」が題材となっており、庶民の生活に根付いていたことである。浮世絵版画は大量生産が可能なることから安価で、庶民が手にとって眺め楽しむことのできる大衆文化の一つでもあった。さらに、その大胆な構図と鮮やかな色彩は、後に西洋の人々を魅了し印象派などの西洋絵画や工芸品に大きく影響を及ぼしたことも特筆されるものである。

中学校学習指導要領では、第2学年及び第3学年のB鑑賞(1)アで「造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識を持って批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと」と定めている。本時で鑑賞するのは、世界で最も知られた日本の画家といわれている「葛飾北斎」の代表作「富嶽三十六景」46枚の全作品である。「葛飾北斎」の名前や「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」などは知名度も高く、生徒も目にしたことのある作品である。同一作家の作品をまとめて鑑賞することにより、北斎の作風を概観的につかませるとともに、それを分類させることにより生徒一人一人が独自の着眼点を持って作品を見る行為を導き、それを班で共有することで、作品の多様な見方が広がることを期待している。また、この作品鑑賞を手がかりに、「ジャポニズム」と呼ばれたヨーロッパ美術に大きな影響を与えた当時の代表的な作品等を鑑賞し、B鑑賞(1)ウの「日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深めるとともに、諸外国の美術や文化との相違と共通性に気づき、それぞれの良さや美しさを味わい、美術文化の継承と創造への関心を高めること」にも迫りたい。

(3) 指導観

一度にたくさんの作品を鑑賞することで、必然的に比べたり共通性を見いだしたり好き嫌いの感情が芽生えたと考えられる。

本時の鑑賞活動は、以下のような手順で進めることとする。

- ① 班ごとに46枚の作品を机上に並べて見せ、個々の作品を比較分析しながら共通することを見つけ出して分類する。
- ② 分類テーマを班で考え判断する際、その理由が妥当なものかどうかを班でよく話し合う。
- ③ 選んだ複数の作品とそのテーマを他の人にわかるように説明する。ここまでを班と全体で進める。
- ④ 最後に個人でお薦めの作品を1点選んでその魅力を書いてまとめ、発表し合う。

こうした活動における指導の重点は、自分が考え感じたことの根拠を作品の中に見つけさせることにある。教師は「なぜそう感じたか」を問い続け、それにより生徒は作品を注意深く観察するようになり、感じたことや考えたことを他の人にもわかるように伝える力が養われると考える。話し合いでは、必ず根拠や理由をあげて発表させ、個々の着目点に即して意見を言い合ううちに、議論する力も養われる。そうした意見交流は、同じものを観察しても自分と他人の意見は異なることに気づいたり、他の意見の良さに感心したり、他から認められて自分の意見に自信を持ったりする機会にもなる。こうした美術作品の鑑賞により、観察力、感受性、議論する力、自他の区別と自己肯定感、他人の意見を尊重する気持ちを育てることができる。と考える。

3 題材の目標

- (1) 浮世絵の表現や技法に関心を持ち、主体的に見方や理解を深めようとしている。

【関心・意欲・態度】

- (2) 感性や想像力を働かせて、造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図、創造的な表現の工夫などを感じ取るとともに、浮世絵とその影響を受けた印象派などの作品の相違や共通性に気づき、日本と西洋の美術の交流などを理解し、作品を深く味わうことができる。

【鑑賞の能力】

4 指導計画と評価（全3時間）

時間	学習内容	評価規準	
		関心・意欲・態度	鑑賞の能力
1	「浮世絵って何だろう？」 ・浮世絵制作の様子をDVDで鑑賞	浮世絵の特質に関心を持ち、主体的に日本の美術や伝統と文化を理解しようとしている。（記述）	浮世絵をはじめとする日本の伝統的文化を継承し、創造していくことの意義を感じている。（記述）
言	・浮世絵制作の様子をDVDで鑑賞し気づいたことや感じたことを発表する。【全体】		
2 本時	「富嶽三十六景を味わおう！」 ・「富嶽三十六景」の鑑賞 ・班ごとの交流と、全体での交流、個人のまとめ	形や色彩などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。（観察）	形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。（記述）
言	<ul style="list-style-type: none"> ・46枚の作品をいくつかのテーマに分ける話し合いをする。【小集団】 ・自分たちのテーマと根拠を発表し合う。【全体】 ・改めて作品を鑑賞し、自分の一番気に入った作品を決め、そのよさを具体的に説明する。【個人】 		

3	「ジャポニズム」 ・有名な絵師や作品の鑑賞 ・浮世絵の学習のまとめ	それぞれの作品の形や色彩などの特徴や印象、作者の意図や表現の工夫に関心を持ち、感じ取ろうとしている。(記述)	作品の特徴などを捉え、日本と諸外国の美術や文化の相違と共通性に気づき、それぞれの良さや美しさなどを味わっている。(記述)
言	・日本の美術作品から影響を受けた諸外国の作品を鑑賞し、自分の価値意識を持って感想をまとめる。 【個人・全体】		

5 本時の指導

(1) 本時のねらい

- ① 作品を細部まで注視し、その意味するところを考えながら鑑賞しようとしている。【関心・意欲・態度】
- ② 作品の分析的な見方を通して観察力と感受力を発揮し、自分の価値意識をもって作品を味わうことができる。【鑑賞の能力】

(2) 評価規準

評価の観点	評価規準	言語活動の工夫
① 【関心・意欲・態度】	形や色彩などの特徴や印象、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などに関心を持ち、主体的に感じ取ろうとしている。(観察)	多くの作品から共通性を見つけて分類する際、その根拠を必ず作品の中に見つけさせる。
② 【鑑賞の能力】	形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、本質的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。(記述)	お薦めの一枚を選んでその魅力を書いてまとめる際、グループ活動で出された情報を総合して自分の考えをまとめさせる。

(3) 本時の展開

段階	学習活動	指導と評価	指導上の留意点
<p>導入</p> <p>10分</p>	<p>1 作品との出会い</p> <ul style="list-style-type: none"> 「富嶽三十六景」の中から一番好きな作品を選び理由を考える。資料提示 選んだ作品と共通点のある作品を選ぶ。 <p>2 学習課題の確認 課題設定</p>	<ul style="list-style-type: none"> 根拠が明確な生徒に発表させ考え方の確認をする。 構図や内容、色や形などの要素に基づいた鑑賞の例を提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 選んだ根拠をできるだけ明確にさせ、本題の練習とする。 各自が自分のペースで46枚を鑑賞する時間を設定する。
<p>絵を分析して富嶽三十六景の特徴やよさを具体的に味わおう。</p>			
<p>展開</p> <p>32分</p>	<p>3 絵の分類</p> <p>① 班ごとに46枚の作品を机上に並べて見せ、個々の作品を比較分析しながら共通することを見つけ出して分類する。情報分析</p> <p>② 分類テーマを班で考え判断する際、その理由が妥当なものかどうかを班でよく話し合う。思考・判断</p> <p>③ 選んだ複数の作品とそのテーマを他の人にわかるように説明する。ここまでを班と全体で進める。</p> <p>4 「お薦めの一枚」を紹介する</p> <p>④ 個人でお薦めの作品を1点選んでその魅力を書いてまとめ、発表し合う。表現</p>	<ul style="list-style-type: none"> 絵の細部まで注意深く観察させて、共通点を探させる。【関】形や色彩などの特徴や印象、創造的な表現の工夫などに関心をもって観察している。(観察) 分類の根拠や理由を必ず絵の中に見つけさせる。【鑑】形や色彩などの特徴や印象などから全体の感じ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫などを感じ取っている。(記述) 班で選んだ作品とテーマを発表させる。 自分の選んだ1点について、根拠や理由を添えてその魅力を書いてまとめさせる【鑑】作品の持つ本質的な良さや美しさを感じ取り、自分の価値意識をもって味わっている。(記述) 	<ul style="list-style-type: none"> 絵を成り立たせている色や形、構図や内容などの要素に着目させる。 一人一人の考えが生かされるようにする。 なぜそう思うか、本当にそう言えるのかを問いかける。 様々な見方や感じ方による分類テーマが紹介されるよう、机間巡視をしながら意図的な指名により発表させる。 各班から出された情報を板書で整理し、情報を総合してまとめさせる。
<p>終末</p> <p>8分</p>	<p>5、まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> 鑑賞会をしての感想を書く。振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> 要素に着目した鑑賞で、見方や感じ方が深まったことを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の価値観や好みだけでなく、作品鑑賞にも様々な観点があることを理解させたい。

(4) 板書計画

本時の課題

「絵を分析して富嶽三十六景の特徴やよさを具体的に味わおう」

○共通点

(内容・構図・色・形など) ※話し合いの例となるもの

○お薦めの一枚

※カードを貼る

○班ごとの発表 ※プリントを貼る

1 ※内容・構図・色・ 形など、着目した点 を評価する。	2	3
4	5	6